



意外と知らない

レントゲン写真の豆知識

監修
新城市民病院
放射線課

ID 751376216 (ほのか診察室)

問合せ 市民病院(代表) TEL 22・2171

●はじめに

「胸のレントゲン写真」と呼ばれる胸部X線撮影は、接する機会の多い検査です。健康診断や人間ドック、病院の入院時や手術前など、あらゆる場面で撮影されます。今回は胸部X線撮影の豆知識を、診療放射線技師目線で紹介します。

●不思議なポーズの理由

機械に胸をつけ、肩の力を抜いて手を腰に置く。そして肘を前方に出す。この不思議なポーズで撮影するのは理由があります。普通に立っている状態で撮影すると肺の中に肩甲骨が写り込んでしまい(図1)、肺の中を見る際に障害物となってしまう。しかしこの不思議なポーズ

ズをとることににより肺の中から肩甲骨の影を外すことができず(図2)。何気ないポーズですが、先人の知恵と工夫が詰まっています。

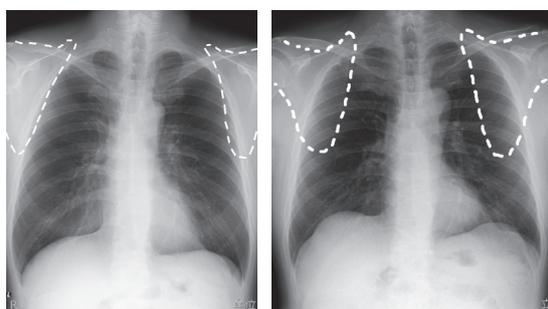


図2

図1

●なぜ大きく息を吸うの?

撮影する際、診療放射線技師から「息を吸って止めてください」と声をかけられます。肺は呼吸により風船のように膨らんだり縮んだりする臓器です。大きく息を吸い、しっかりと膨ら

ませた状態で撮影すると、肺全体を見ることが出来ます。息を吸った写真(図3)と息を吐いた写真(図4)ではこれだけ肺の大きさが変わります。

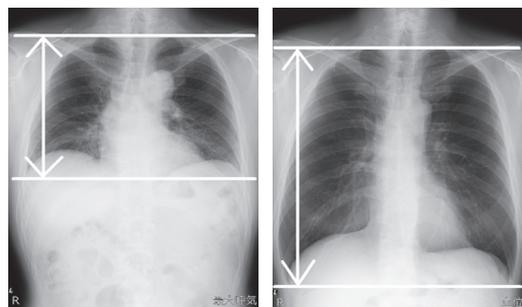


図4

図3

●金具がいついてくるようになるの?

撮影前に洋服についている金具の有無も確認します。そのまま撮影すると写真に写り込んでしまいます(図5)、病気発見の妨げになる可能性があります。使い捨てカイロや貼り薬も同様です。(図6)

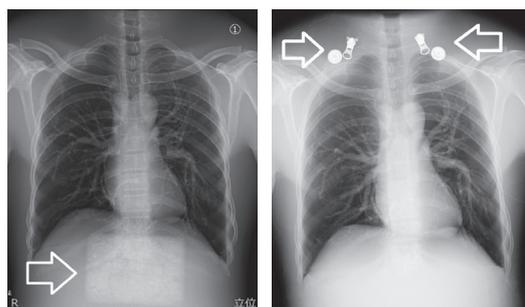


図6

図5

●やぶさか

検査の際に診療放射線技師から指示のある行為一つひとつには、実は大きな意味があります。診療放射線技師と患者さんが接する機会は、撮影の間だけです。その中で患者さんの目線に立ち、検査に対する不安や負担を軽減しながら、診断価値の高い画像を提供できるよう心懸けています。

